

## デイリー・ジーザス・ニュース #230

### イエスのエルサレムへの最後の旅

#### イエスは独身について教える

マタイ19.10-12

10 弟子たちはイエスに言った。「夫婦の間にこのようなことがあれば、結婚しないほうがよいでしょう。」

11 イエスは答えた。「この言葉を受け入れることができるのは、誰もが受け入れることができるのではなく、それが永久に与えられた人だけです。」

12 「生まれつき宦官である者もいれば、他人から宦官にされた者もいる。また、天の王国のために宦官として生きることを選んだ者もいる。」

」私はこの召命を受け入れることのできる者に、それを受け入れるように命じます。」

=====

注: 私たちは「混合テキスト」の原典福音書を次のように上付き文字で識別します: マタイ = <sup>MT</sup>、マーク = <sup>M</sup>、ルカ = <sup>L</sup>、ヨハネ = <sup>J</sup>、使徒行伝 = <sup>A</sup>。この「上付きID」は引用文の冒頭に挿入され、別の上付き文字が現れるまでその聖書書を識別します。さらに、**赤いイタリック体はイエスの言葉を示します**。旧約聖書の引用は大文字で書かれています。

コンテキストダイジェスト	
位置	エルサレムへの道のどこか
タイムライン	3月 ( 38月 )
イエスの生涯の文脈	第7段階: ペレアにおけるイエスの宣教
	C. イエスのエルサレムへの最後の旅
タイトル	8. イエスは独身について教える

コメント:

「結婚しない方が良い」という彼らの反射的な発言が、そのことを物語っています。

彼らは簡単に離婚できるという安全網に慣れていました。イエスの視点は、結婚生活を始めた頃よりも深い献身と、より犠牲的な愛を求めています。彼らは心の底から試されたのです。

イエスは彼らの言葉を真剣に受け止めました。独身生活は神の国において重要な問題です。イエスはこの聖句の中で、独身というライフスタイルについて私たちに重要な指針を与えました。

## デイリー・ジーザス・ニュース #230

イエスが最初に言われたのは、独身生活はすべての人にふさわしいものではないということです。結婚は、ほとんどの人々に対する神の計画です。神は工バを創造し、結婚制度を定める前に、「**人が独りでいるのは良くない。わたしは彼のために、ふさわしい助け手を造ろう**」（創世記 2章18節）と言われました。結婚は神からの賜物であり、この時代における人類に対する神の計画の中心です。

しかし、イエスは独身もまた神からの賜物であることを明確にされました。誰もが独身でいられるわけではありません。独りでいるには特別な恵みが必要です。イエスは完了形を用いて、神から与えられた独身生活の永続性を強調しました。

イエスは3種類の独身について言及しました。生まれつき独身の人もいれば、生殖能力や結婚生活における性交能力を持たない人もいます。また、他人の行動によって結婚できなくなった人もいます。例えば、イエスの時代には、王室の役人たちが当然のように去勢され、その結果、永久に独身になった人もいました。最後に、イエスは「**天の王国のために」永久に独身になる人もいますと言いました**。これはどういう意味でしょうか。

独身者は、既婚者にはできない方法で、福音宣教と祈りに100%の時間とエネルギーを捧げることができます。これは神からの召命であり、召命には神への奉仕において独身であり続ける恵みが伴います。イエスご自身が、神の国のために独身であった人の模範でした。神への奉仕に身を捧げる独身者は、イエスが福音を携えてすべての国々に宣教する上で、大きな力となります。

福音のために独身で永遠に生きるという賜物は、結婚を望みながら独身でいることとは異なります。後者の場合、結婚を望み、その選択肢が与えられたなら、それを追求するでしょう。独身の賜物は、神に仕えるために独身で永遠に生きるという決意を伴います。そのような人は結婚関係を求めることは決してありません。

応用：

結婚生活にも独身生活にも、それぞれ利点があります。独身であろうと既婚であろうと、私たちは皆、イエスに従うことに身を捧げる必要があります。どちらにせよ、私たちは神の恵みによって果たすべき召命を受けています。私たちは、あらゆる方法でキリストの御業を推し進めるために、自分の置かれた状況を最大限に活用しなければなりません。

*結婚した人としてさらに神に仕えるために何ができるでしょうか。*

*結婚を望む独身者として、さらに神に仕えるために何ができるでしょうか。*

*神に仕える独身の決意をした人として、さらに神に仕えるために何ができるでしょうか。*